

今回伊丹沢を含む深谷地区に設定し、地元役員の皆さんにも説明し、ご理解いただきました。具体的な整備内容は、庁内等の素案がまとまり次第、議会の皆さんと協議したいと考えています。

賠償

財物賠償で、農地（田畑）については、当初8月末頃に請求できる予定でした。しかし、資源エネルギー庁の説明では、鑑定評価の単価設定のため、2・3か月遅れる見込みだということです。また、立木も含めた山林についても、年内に請求ができるように作業を進めているということです。

未請求者対策としては、国及び東電に対して、賠償の未請求が時効とならないよう、しっかりと対策を講じるように強く求めます。

税関係

東日本大震災に伴う減免の受け付け状況は、固定資産税の償却資産分が61件・1328万円、個人村民税2527件・1億5

村内事業所の営業再開

平成24年7月17日の区域見直し以降、金融機関・ガソリンスタンド・自動車整備業・建具製造業など、26事業所が国の許可を得て、村内で事業を再開しています（平成25年7月末時点）。ほかに1件が申請中で、今後増えることが予想されます。

いいたてクリニック

6月22日に社会医療法人秀公会と「飯館村帰村におけるいいたてクリニック再開に向けた協定書」の調印式を行いました。これは、村が帰村宣言した場合、社会医療法人秀公会が速やかに



▲帰村後に診療再開予定のいいたてクリニック

216万円、国保税1186件・2億5675万円、介護保険料1871件・1億2530万円、後期高齢者医療保険料1171件・3042万円となっており、

太陽光発電

先の6月議会で「いいたてまでいな太陽光発電株式会社」への出資について承認され、現在、出資の手続きを進めています。また、来年度から本工事が進められるよう、現在、大火山牧草地の除染を進めているところで



▲いいたてまでいな太陽光発電株式会社の臨時株主総会のようす

村外での営農再開支援

営農再開希望者への支援策として、県の避難農業者一時就業等支援事業、園芸産地復興支援対策事業、耕作放棄地再生利用交付金事業などの個人負担を極力抑えた事業活用を進めています。今年度は畜産1戸、花卉5戸、野菜5戸の合計11戸の農家が着手しています。

村内の農地管理

最低限の維持管理として、農地の草刈りを中山間地域等直接支払事業と農地・水・環境保全向上対策事業を活用して、実施しています。

また、草野向押地区・小宮地区・長泥地区での営農再開支援事業は、地力増進対策としてクローバー等の播種を行いました。今後、雑草対策を実施する予定です。

村道の草刈り作業

今年度は、年2回の除雪路線の草刈りと合わせて、除雪路線以外の村道についても年1回の草刈りを実施することになって

います。現在、除雪路線の1回目と除雪路線以外の路線の草刈りが終了し、今後、除雪路線の2回目の草刈りを実施して一時帰宅における交通の安全確保に努めます。

一時帰宅支援事業



▲避難先と村をつなぐ「いっとき帰宅バス」

8月2日から一時帰宅支援事業として、いっとき帰宅バスの運行を開始しています。高齢者等に帰宅手段を確保し、ふるさとに帰ることでストレス解消や心身の健康と財産の維持管理を図りながら、帰村率の向上につなげます。

の皆さんに御礼を申し上げます。

村塾

今年で5回目となる「村塾」事業を8月7日より開催いたします。今年から、対象を中学1年生から3年生までの全学年に拡大し、広く中学生の学力向上につながる仕組みとしました。また、飯館中学校から先生の派遣を受けるなど、中学校との連携も深め、より効果的な事業展開に努めているところです。



▲村塾で学ぶ中学生のようす

沖縄までの旅

今年で4回目となる沖縄までの旅事業は、3泊4日の日程で、本村の小学6年生48人が沖縄の豊かな自然と戦跡を訪れ、環境保全と命の大切さを学びました。村外の学校に転校した14人も参加し、懐かしい友達との再会を果たし、共に飯館村の仲間としての絆を確認しました。

子育て支援庁内検討会

7月23日に、第1回子育て支援庁内検討会を開催しました。この検討会は役場職員、保育所、幼稚園関係者、スクールカウンセラーなどで構成されています。避難している若い子育て世代の支援を今後どのように行っていくか、良いか、アンケート調査や検討を重ね、できることから子育て支援事業を実施するために立ち上げました。

「未来への翼」ドイツ研修

11泊12日の日程で行われ、18人の中学生がドイツの農村で自然エネルギーを基盤とした、環境に配慮した農村の生活スタイルを勉強してきました。本研修にも、4人の転校生徒が参加し、旧交を温めました。



▲現地でガイドから沖縄戦のようすを聞く村の子どもたち

支援事業

全国各地から様々な支援事業を提案していただき、4月以降、25のプログラムに700人以上の村民が参加しています。改めて、支援をしていただいた全国